

会場質問

(フロアより：樋脇町 井上氏)

樋脇町の井上と申します。2つほどあるんですが、皆さんがいろいろ提言されている内容では、お金のからないものもあるんですけども、お金がかかるものも結構多いと思うんです。さきほど、甕島の橋のことが言われましたけれども、かなりのお金がかかる問題。このフォーラムの方々の考えの中に、財源的な裏付けというのをどういうふうに考えていらっしゃるのか。やはり、いろいろ夢や理想、そういうものを提言していくという中で、だいたいこういう合併をすると財源的裏付けが生まれてくるということが前提にあるんだろうと思いますけれども、そこがどういうふうに基本的に考えられていらっしゃるのかということ。

私はちょっと心配しているのは、面積は相当大きくなりますけれども、職員をそんなに削るということはできないと思うんです。一気に削るということはできないわけですね。だから、そういう面でそんなに財源的に余分なお金が出てくるということはあまり考えられないというふうに思うんですが。また、交付税の問題も、10年15年は現在の交付税が保証されるとは言っても、それは10年15年であって、その後は暫定的になくなっていくわけですね。そういう問題があると思うんです。

もう1つお聞きしたいのは、庁舎の問題です。重要なポイントだと思います。現在の庁舎を、川内市に置くということで今の庁舎を使うということになると、9市町村の職員を全部というふうには集めるということはできないというのは誰が考えても明らかですから、各支所ごとにかんりの数の職員の方が残るということになるんです。そうすると、分庁方式ということが考えられてくると思うんですけれども、分庁方式ということは一言もないわけですが、この庁舎の問題、老朽化に伴って建て替える時にはどこか移転するんだという話でしたが、老朽化がどのぐらいの期間維持、今の庁舎がどのぐらいもつのかということなども少し詳しくご説明いただければと思います。

(コーディネーター 中俣代表)

ただいまのご意見ですが、会場がざわざわしてまいりましたけれども、わかっていらっしゃる方はわかっていらっしゃるようで、まちづくりフォーラムで検討する事項と、法定合併協議会で検討する事項と分かれておりまして、ただ、我々はあまり財政のことを心配すると意見が言えなくなりますよね。夢は描いていいと。そこで、新市まちづくり計画の中で優先順位を付けて取っておいてもらおうと。10番目でも100番目でもいいから、こういうことが希望があったよ

というのはとっておいてもらう、そういう程度で構わないと思います。

それから、庁舎の問題についても我々が語ることはないんですが、さきほどのスライドの説明でも一応あったかと思いますが、支所体制にとりあえずはなっていくんですかね、よくわかりませんが...。ですか。ということだそう。答えでよかったですか。

他にございますか。

(フロアより：鹿島村 小村氏)

私は甕島の、今度合併する中でも人口の一番少ない鹿島村の小村でございます。さきほどから甕島のことについてフォーラムの中でも話題に出ておりますし、そういう意味ではやはり広域になっても甕島の我々の生活の利便性というのは上がるんだなというような感じを受けて、皆様のご苦勞に対して感謝をしたいと、こういうふうに思います。

それから、全体的なことですけれども、代表の方に2点ほどいかがいたいたんですが、このフォーラムの委員会の機能というのは、これから提言なさせて、それから、骨子をまとめるんですか。それで、1月には皆さんのこの委員会解散というような流れになっているようなんですけれども、今、代表が申しあげましたように、この5つの大きな分野の中で、数で申しあげましてさっき出ましたように大きな項目で16、それから、具体的な数にしますと49あるというような大変に膨大な数字ですけれども、提言する場合にはやはり優先順位というのが出ておりましたけれども、皆様の方で会議の中で出た優先順位を付けてお出しになるというようなお考えがあるわけですか。

それから、具体的な細かいことですけれども、さっき出ておりました医療の問題ですけれども、甕は1つのようなんですけれども、現実には上島下島が2つあってというようなことになっておまして、私どもは下島の方に入りますけれども、おそらく皆様のフォーラムの中で出たと思いますが、病院医療ということも1つ考えてみましても、この中には現在ある施設を充実していくというような提言がなされておりますが、現実には私どもの村の方は隣村の、今の問題になっております、失礼ですけれども、下甕村の診療所を大半利用させてもらっていると、こういう面もあるんです。その点もぜひまた今後の提案の中にお考えくださいということ。

それから、もう1つは、協議会に関係することですけれども、この中にさっき項目ごとに社会基盤の中でも新しい市を募集しておりますが、その中には串木野は入っているという前提でもってみんな今お話は進んでいるようなんですけれども、現実には私どもの耳に入るメディアからの状況であるとか、串木野ははたしてどうなるのかというようなことから関係しますと、今後の動向如何では、

いろんなこういう名称の問題からして、またやり直しのことが出てくるんじゃないかと、そういう危惧もするわけですが、特に漁業を抱えている我々としては、串木野の存在というのはなかなか無視できないものも一方ではあります。そういうことも含めて何かこの場で発表できることがあればお聞かせ願いたい、こういうふうに思います。

(コーディネーター 中俣代表)

どなたか答えますか。私にという質問もありましたので。

優先順位については、各分科会でみんな自分たちの案は優先してほしいという熱意を持って作っております。あとでまたそのへんのところをポイントだけを押さえて発表してもらう時間を作りたいと思いますが、優先順位となりますと時代の要請とか予算とか関わってきますので、どうしても行政の方に任せなくてはいけないのではないかと思います。

それから、どういう人たちが作っていくのかというのは、プロジェクトチームができるんですかね、新市まちづくり計画のチームが行政の人たちを中心にできまして、我々のこの提言が叩き台として考慮していただけるということになります。そして、その新市まちづくり計画ができた時には我々もずっと見させていただけるという流れになっております。それから、医療施設のことなんですけど、提言書にも一応、総合病院まではないんですが、準総合病院の建設という言葉で、甑島の医療のところでは検討してあります。

それから、串木野の問題は難しい問題でございまして、非常に串木野も一番困っていらっしゃる時期ではないかと思いますが、我々まちづくりフォーラムの委員としては、串木野さんはこれまでずっと何か月も一緒に話し合ってきたメンバーでございまして。そういう点では、はっきりと串木野さんの態度が決定するまでは、このまま串木野さんも参加というつもりでこのフォーラム、提言書も進めていきたいと思っております。万一のことがあればちょっと修正も出てくるかと思っております。以上でよろしいでしょうか。

どうぞ。

(フロアより：川内市 小城氏)

川内の小城でございまして、皆さんが一生懸命なって作られていらっしゃるのを聞かせてもらいましてありがとうございます。その中で、今、鹿島の方もおっしゃいましたけれども、祁答院の町もいろいろと揺れておられるようございまして、参加されるかどうか、そこらも一つよろしくお願ひしたいと思います。

私の質問はもう1つあるんですが、都市の魅力というのがあるんですけど

も、その都市という言葉が、都市とは何だろうかと思ったんです。13万が都市と考えるのか、100万が都市と考えるのか、どこらの都市の機能なのかということがどうもひっかかってならない点を感じました。それで、そこらは1、2万から比べると13万は確かに都市なんですけれども、13万というのが1つのところに集まるのではなくて、それぞれの町が集まっての13万ですので、そこらは少し何か検討される中でもう少し検討いただきたいなという点であります。

それと、もう1点でございますけれども、内策と外策とあると思うんですが、非常にこのフォーラムにつきましては内策は非常にできていると思うんですけれども、いわゆる外策、外から見て魅力はどうかというわが町を考える視点で捉えていただいて、たとえば27ページのこだわりを持ったまちづくりというのは、どこかにおいしい店があるよということではなくて、素晴らしいまち並みがありますよ、自然がいっぱいのいいまちなんだよ、人情豊かなまちだよといったようなそういうまちを作っていくとおかしいことになるのではないかなと。どうもこれを見てますと、何か東京か福岡のまちを想定して、そういうまちに近付けるというような感じではないかもしれませんが、そのような気がしてなりません。したがって、この今皆さんが一生懸命やっていたら2市4町3村のその魅力は何なのかということの中で、そういう大都市ははたしてこのまちにどういうまちを形成したら来るのかということも1つの、さきほどの財源確保もありましたけれども、そういう視点でもっともっと語っていただきたいなというのを感じました。

どうか、その中でもう1つ、私ども川内でございますけれども、川内の場合は原子力発電所を持ってあります。それは九州地区のエネルギー供給として我々は誇りを持ってありますけれども、祁答院町の方ではそのことはどうだというような話もあったようでございますが、決してそうではなくて、私どものまちも原子力発電所を有しながらエネルギーのまちというのもう1つこの中に出て来ないというのが僕は残念でなりませんし、また、そのエネルギーのまちというのはただ供給だけではなくて、それに関する、これから電灯がなかったら生活できないと思います。そういったことももう1つ検討の材料の中に入れていただいて、そこらもフォーラムで夢として、原子力は悪いかどうかわかりませんが、やはり私ども資源のないまちから見ると、資源のない国から見ると必要なというふうに僕は思っている1人でございまして、そういったことからそういった意味のこともご検討いただきたいなという、意見というより要望です。よろしく申し上げます。

(コーディネーター 中俣代表)

どなたか。では、柏木さん、どうぞ。

(産業経済グループ 柏木倣委員)

非常にいい意見だろうと思いますので。私もそういうふうないろいろな考え方を持っているんですが、当初に代表も申しあげましたように、この資料の中にそれぞれの地域の方の代表者の名前が書いてございます。その中で、各行政ごとに5人ずつ出ておりますから、1人は必ずどれかの分科会に参加をされているはずですが、その方々がグループの中の話合いというのは十分ご承知ですので、もしできたら、そのグループに入っておられる方々の委員の方に会の流れを聞いていただければ一番よくわかるんじゃないかなというふうに考えますし、私などは合併をしたから云々とか合併をするから云々という論議はしておりません。委員に任命をされた時に委嘱状をいただきましたので、委嘱状をもらった時に、私どもは新しいまちづくり、これをする時にはこういうふうな提言をして委員になりますということで、最初から合併がいいとか悪いとか何とかという討議はしておりませんので。私も最初第1回の会の時、私は入来町ですが、入来の中から選出されてきたけれども、合併について云々という議論はこの中ではしませんよと私は申しあげました。それはなぜかと言うと、みんな個々それぞれいろいろな考え方がありますから、その問題を出していけばフォーラムの会は成立しないわけですので。そこで、協議会の会長さんから委嘱状をもらったということは合併をすることには別にもう何も抵抗はないよということで皆さん委員になられたんだろうというふうに考えております。その中で、合併をしますよということで、極端に難しい理論とか何とかではないんですけども、私は13万都市、あるいは大きくなった方がいいよと自分では考えておりましたから、当然お引受けをしたわけですが、それで、それぞれのグループの中でいろんな話合いがものすごく出ておりました。最初はぜんぜん知らない方ばかりですから、みんな何を言っているのかわからないというのが1回目でした。まず、座長を選ぶも、私もある程度、見られたように戸籍年齢がずっと上ですから、年を取っているからいいというふうなことであるかもしれませんが、いずれにしても座長、副座長決めて、それから話をするのには2回目ぐらいからやっと話合いができたということですが、最初に申しあげましたように、この中身についてはそれぞれの行政から出て来られた委員の方はみんな知っているしやるので、できたらその方々にその雰囲気とか内容を聞いていただければ一番いいんだろうと思いますし、個々の代表も我々の代表ということで出してありますが、それなら、このすべての会を代表したから一切あなたの責任とか、それはないだろうと思いますから、同じ仲間として新しいまちができればこういうふうな提言をして、ぜひ新しいまちの首長さん、あるいは

はそれぞれの議会の方々には少なくともこういうことはしてくださいよという願いを今提言として出しているということで、これはできるかできないかそれもわからないわけですが、そういうことですので、希望をものすごく入れながら、ぜひこれだけはしてほしいというのが提言だろうというふうに考えておりますから、ご理解を願いたいというふうに考えます。

(コーディネーター 中俣代表)

中島さん。

(教育文化グループ 中島増夫委員)

東京、大阪のような大都市を考えているのかといったようなご質問もあったかと思うわけですが、川西薩ベルト地帯といったようなものができればそれにこしたことはないわけだろうと思いますが、私は教育文化のこの部門で話し合いをいたしましたけれども、さきほども申し上げましたが、現在、川内市は川内市、串木野は串木野で大きなまちの中で、それぞれ地域の伝統・文化活動、教育活動を行っておりますし、私どもこの川内から離れたところのまち、甕島、それぞれ今まで長年にわたってきた培ってきた文化、伝統、地域性というのをもうすでに持っているわけですが、それが一緒になって新しいまちを作っていくというその過程の中では、私さきほど申し上げましたように、地域性を十分大事にしながらそれを伸ばす。いろいろな郷土芸能とかそういうものもさらに活性化させていながら、その中から、それなら宣伝、大綱引きにみんな見に行こうやとか、串木野の冠岳の祭に多くの人が行って、串木野のいろんなものを見ようやとかといったような、それをお互いに交流を図ったり、お互いの親交を図っていく。そういうことを通じながら、おそらく長い時間をかけて新市のふるさと、新市の伝統文化といったようなものができるだろうというふうに考えております。さらに、たとえば、文化施設等につきましても、川内の歴史資料館とか入来の郷土館とか樋脇の郷土館資料室とか、そういったものがそれぞれに特色を持ちながら、新市になったらネットワークを組めるのではないかと。川内にないものが樋脇にはあるぞ、樋脇にないものが入来にはあるよと、お互いに交流を図っていくというメリット、そういったものがおそらく出てくる。また、そういう努力をしていくことによって、新しい13万都市が生まれてくると、そういう確信を話し合いを通じて持ったと思っております。以上です。

(コーディネーター 中俣代表)

今、中島さんがうまくまとめてくださったと思いますが、たぶん、フォーラ

ムの委員の中で都市という言葉で東京とか大阪とかイメージした人はまずないと思います。田園都市という言葉もありますが、何も地下鉄がモノレールが走っていないなくても、各地域が持っている共有財産を結ぶアクセス道路がきちんとしている、それが1つの都市ではないでしょうかと、そういうことでの都市という言葉を使わせていただきました。

それから、2つ目の質問の内策外策ですが、確かに外策、つまり外に向けてどう発信するということはぜんぜん検討しておりませんでしたので、これから間に合えばまた入れさせていただきたいと思います。

それから、エネルギーのことについても、議題には後の方には出ているんでしょうか、私も整理していきたいと思います。

では、もう一方、受けましょう。

(フロアより：東郷町 田島氏)

東郷の田島でございますが、産業経済グループの私がかねがね大変尊敬しております柏木さんにおたずねいたしたいわけでございますが、さきほど立派な討論の結果をお聞きしたわけでございますが、農林水産業という言葉がありますが、農業と水産業につきまして非常に積極的に出されておりますが、私が見た範囲では、見落とししかもしれませんが、林業のことがないわけでございますが、国土保全、森林資源のそういった問題、森林資源の育成、その販売の問題とか、いろんな重要な1つの部門テーマではなかろうかと考えるわけですが、この点につきまして討議されたものか、その結果、特に取り上げる必要はないということに判断されたのか、そのへんの経緯がありましたらお聞かせいただきたいと思うわけでございますが、よろしく申し上げます。

(コーディネーター 中俣代表)

では、産業経済の柏木さん、お願いいたします。

(産業経済グループ 柏木俣委員)

まだ、今おっしゃるようなどこまでがこうなるよということまでの小さいところまでは論議の中には入っておりませんが、今言われている地産地消という言葉そのままとこの雰囲気の中に取り込んでいこうということでございます。

(フロアより・東郷町 田島氏)

いわゆる農業と林業の分野につきましての1つの何か審議の過程があった

んだらうかということです。

(産業経済グループ 柏木倣委員)

当然、今、最近新聞にも出ておりますよね、「地材地建」とか、いろいろ林業等も出てくると思いますが、その問題は農業の一環としてすべて取り上げていきたいと思いますので話合いはしてございます。それから先、小さいところまではまだそういう話合いはしてございませんので、気持ちはわかりますけれども、基本的にはすべてのものを包含したのが地産地消ですよという考え方でございます。